

## HDR

HDR とはハイダイナミックレンジ **high dynamic range** のこと。



左の写真のように、風景などの明暗差の激しい状況で写真を撮る場合、カメラは（フィルムカメラにしてもデジカメにしても）すべての光の領域をとらえることができない。

左の写真では、雲の部分は白く飛び、建物の影の部分は黒くつぶれてしまっている。

今までちょっとでも露出のことをかじった撮影者なら、明暗のどちらかを優先するか、両方とも犠牲にして中庸な写真にするか、を選択して露出を決定していた。それでも思ったように写らない、ということは良くあることだった。

ところが数年前から、画像処理ソフトで、あるいはデジカメ自身が、露出を変えた数枚の写真を用いて明るいところ・暗いところをバランス良く調整して、一枚の写真に仕上げる **HDR** という機能が普及するようになってきた。私も **HDR** 編集機能を持つ写真管理ソフトに乗り換え、露出を変えた写真をあらかじめ撮っておき（ブラケット撮影という）、**HDR** 合成をするようになっていた。

しかし、面倒なのだ。**HDR** 編集のためにブラケット撮影するってのは。

ところが **PhotoRecolor** というソフトは、一枚の写真から **HDR** 合成をしてくれるという。紹介記事を読んで懸賞応募したらどういいうわけか当たったので（めったに応募しないのだが）、試しにやってみた。

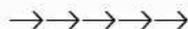


効果は3段階+カスタムから選べる。左の写真は一番効果が薄いモードで **HDR** 化してみたが、暗部のつぶれはかなり改善されているのが分かると思う。室内でフラッシュ撮影した写真などにも効果があると思われる。

このソフトのメリットは、1枚の写真から **HDR** 化してくれるので、過去に撮影したちょっと残念な写真も蘇らせることがで

きるという点だ。

写真管理ソフトとしてはイマイチ使いづらいので、**HDR** 編集専用ソフトとして使っているが、4000円程度で手に入るようなので、おすすめしておこうと思う。



ちなみに開発元は Fanfare という会社で、windows3.1 ~ 98 時代によく使ったお絵かきソフト・Z's STAFF KID ~スーパーキッド (Zeit 社~アスキーサムシンググッド社) の開発を後継した会社だった。そういえば画像効果にも懐かしいフィルタがありますわ。

## 何となく絵画調

鉄道模型モジュールの背景として、またパソコンの壁紙として作成している絵画調写真の作り方です。



左の写真が原版となる写真です。この写真は絵画調にすることを前提で撮りました。

写真としては空のディテールが飛ばないように、全体としてアンダー気味に撮っています。完全に白飛びや黒つぶれにならない限り、何とかかなという作戦です。

中の写真が、PhotoRecolor というソフトで HDR を効かせたものです。かなり雰囲気が変わっていると思います。このあと絵画調にするので (写真として鑑賞するわけではないので) HDR を大きめに効かせているからです。

従来ですと、レタッチ系のソフトで彩度を上げたり、トーンカーブをいじったり、色々な操作をして仕上げる行程が PhotoRecolor の HDR でほぼ一作業で済みます。

右の写真が、PaintShopPRO というソフトで、電線などを消し 640\*480 サイズにトリミングしてから絵画調のフィルタを効かせたものです。これで完成です。

